

体験記 ライティング支援連続セミナー 知識と言葉をめぐる冒険

文書リテラシー Lesson 1

小論文とレポートの違いはわかりますか？

図書館情報メディア系

三波千穂美 先生

中央図書館ラーニング・アドバイザー
人間総合科学研究科 金井雅仁 さん

今回の講師は図書館情報メディア系の三波千穂美先生でした。先生は「テクニカルコミュニケーション」がご専門で、本セミナーの講師として毎年お話をいただいています。

セミナーはとても盛況で、会場であるコミュニケーションルームの椅子が足らなくなるほどでした。皆さん、とても熱心に先生のお話を聞いていらっしゃり、会場の後ろからでも、しっかりメモをとっている様子を見ることができました。

さて、セミナーの内容についてですが、本セミナーでは「文書」作成における留意点が重要な話題の一つでした。文書には、私たちが普段書いているレポートや論文も含まれます。したがって、文書作成における留意点は、**全ての筑波大生にとって重要なテーマである**と考えられます。セミナーにおいては、指定された書式を守ることの重要性や、正しく引用することの重要性など、様々な話がありましたが、今回は、セミナーのエッセンスを読者に簡潔に伝えるという意図に基づいて、いくつかの内容に絞って体験記を綴りたいと思います。

文書作成においては、以下の点に気をつける必要があります。第一に、文書は、**その文書の目的を達成するもの**である必要があります。例えば、「〇〇を読んで要約しなさい」という課題に自分の主張を盛り込むべきではありません。その場合の目的は「要約」することであり、読み手を説得することではありません。自分の書いている文書がどのような目的に従うものであるのかを**きちんと把握し、その目**

的に合った書き方をすることが重要となります。

第二に、文書は、**対象**(すなわち読み手)を**意識したもの**であるべきです。自分の文書を誰が読むのか、そして読み手がどのような意図を持って課題を設定しているのかを考え、読み手の要求に応えることが重要となります。

第三に、**与えられた時間や環境等を考慮すること**が重要です。「来週の授業で提出しなさい」と言われた課題にいくら力を注いだとしても、提出期限に間に合わなければ元も子もありません。大事なのは、与えられた時間の中で作成するということです。このお話に関しては、文書作成に取り組む前に、残されている時間や自分の置かれている環境を正しく把握し、それらに合った文書作成のプランをきちんと立て、その**プランの中でベストを尽くすべきである**という理解をしました。さらに、文書に含まれる情報や文書の内容は、以上の三点を踏まえた上で決定されるべきであるというお話がありました。

セミナーのタイトルに「小論文とレポートの違い」という言葉が入っていましたが、何が小論文で、何がレポートなのか、という区別は教員によって様々な考えがあると思います。しかし、小論文であろうとレポートであろうと、文書の作成において上記の点が重要であるということに変わりはないのだろうと感じました。言い換えますと、これらの点さえ押さえていければ、正しい文書作成をすることができるのだろうという感想を持ちました。

文書リテラシー Lesson 2 情報を構造化する

図書館情報メディア系
三波千穂美 先生

中央図書館ラーニング・アドバイザー
人文社会科学部 金瑜真 さん

Lesson2 は、「構造化」というキーワードから始まりました。三波先生は、「情報を組み立てるときの考え方として「構造化」がある。人に伝えるには、自分が言いたいことをただ言うばかりではなく、**誰に、何のために、**伝えるのかを考えることが重要である」とおっしゃいました。さらに、先生は、構造化の4段階として以下の説明をして下さいました。

構造化の4段階

1. 目的と対象の理解…見渡す
2. 素材データの収集…集める
3. 情報の分類・整理(組織化)…分ける/並べる
4. 情報の構築…組み立てる

出典：：情報デザインフォーラム編、情報デザインの教室、丸善、2010、p. 106

この4段階の中でも、①「見渡す」の研究課題の探し方について、先生は、こうおっしゃいました。「指導の先生に与えられてやるのではなく、**解く意義のある問題を自分で見つける。**『誰もやってないから』は、理由にならない。それは、ただやる価値が無いから、これまでやってないだけではないか？**〇〇の役に立つ、だからこそ、この課題に取り組む**

べきである、という研究の意義を自分の言葉で説明が出来ることは、その問題を抱える者としての使命である。」私は、この説明に心から共感しました。研究論文を読む際、よく目にする「管見の及ぶ範囲で、先行研究はあまりみられない」というフレーズがありますが、その次に「なぜ、この研究課題に取り組む必要があるのか？」までを、読者に分かり易く提示することは簡単ではありません。しかし、自分の研究を人に伝える上で、この作業を遂げるべき使命として考えることは、論文の執筆者として備えるべき姿勢であると思います。

また、三波先生は、論文を作成するプロセスについて、重要なヒントを出して下さいました。それは、「**はじめに**」を先に書くこと。先生は、「はじめに」を先に書くことで、「足りない部分、調べないと書けない部分がある」と説明して下さいました。この言葉を聞いて、私は、自分が修士論文を書いた時のことを思い出しました。確かに、「はじめに」を書いていると、データ分析や参考文献整理などで、ゴチャゴチャになっていた頭の中が少しずつ整理されていきました。「どうしてこの課題に取り組もうと思ったんだっけ？」といった、論文を書いていると、意外と忘れがちな、研究に対する気持ちを高める上でも、「はじめに」は重要な役割を果たしてくれるでしょう。Lesson2 は、論文を書く上で、心得るべきアドバイスを頂くことが出来た、大変貴重な時間でした。

ライティングセミナーは、中央図書館2F コミュニケーションルームで7/17まで毎週木曜日に開催中。

今後の予定は、Web ページでチェック ⇒ http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/writing_seminar/chishikitokotoba.html



次回、島田康行先生のセミナー体験記をお届け！

